

# 宮城

台場島(東北復興材センター)  
60-0014  
台市青葉区本町2-2-6  
☎ 022-223-3116  
fax 022-223-3119  
巻 ☎ 0225-95-0647  
巻 ☎ 0225-22-7060  
崎 ☎ 0229-22-0163  
石 ☎ 022-362-1251  
石 ☎ 0224-25-3502

宮城地域情報  
http://www.asahi.com/rea/miyagi/

読・配達のご用は  
☎ 0120-33-0843  
(7:00-21:00)  
告のご用は  
☎ 022-263-0131  
り込みのご用は  
☎ 022-236-6763

## 妊婦の安心 役割分担で



胎児の様子を見る阿部院長＝石巻市のあべクリニック産科婦人科

### いま被災地は

#### 震災3年目の地域医療 中

石巻市の「あべクリニック産科婦人科」。真新しいベクリニックも東日本大震災

診察室で、出産間近の女性がエコー検査を受けていた。胎児の元気な様子が映し出され、「順調ですね」と阿部洋一院長(66)。女性も笑顔を見せた。

## 複数病院、相互サポート

震災から4カ月たった7月、石巻市とその周辺の地域で産科を扱う病院やクリニックが「産科セミオ

### 婦人病患者に注力

最近の出産件数は震災前より2〜3割増え、月に40〜50人。「新しいまちづくりのためには、若い人が残ってこれることが必要。そのためには、安心して出産ができる街でなければ」と阿部院長は話す。

妊婦は拠点病院である石巻赤十字病院に集中していた。震災があった3月だけで、通常の2倍にあたる100人ほどが出産する事態になっていた。うちが早く再開しなければ、パンクしてしまおう。がれきを急いで片付け、被災からわずか20日ほどでクリニックを再開した。

被災の津波に襲われ、2層の水につかった。被害は大きく、阿部院長はクリニックを開めることも考えた。しかし、市内にある2カ所の産婦人科が廃院すると聞いて、考えが変わった。

「ワンシステム」を始めた。石巻赤十字病院など出産ができる施設にかかる負担を減らすため、妊婦の定期健診の一部をほかの複数の病院で引き受けるようにしたのだ。現在は8施設が参加している。

### それでも医師不足

「今後は、早産や帝王切開などハイリスクの妊婦の出産により注力できるように、さらに役割分担が進めば」と期待する。

この取り組みによって石巻赤十字病院では、子宮や卵巣のがん、子宮筋腫などの婦人科の患者を多く診られるようになった。手術件数は震災前から倍増し、予約から受診にかかる日数も大幅に短くなったという。

「産科」を始めた。産科の常勤医師はわずか2人。不足を補おうと、市立本吉病院の川島実医師(38)はあまり経験がなかった産科の応援ができるようにと、研修を受けている。

「気仙沼市では震災後、出産を扱えるのは市立病院だけになってしまった。産科の常勤医師はわずか2人。不足を補おうと、市立本吉病院の川島実医師(38)はあまり経験がなかった産科の応援ができるようにと、研修を受けている。」

### それでも医師不足

「気仙沼市では震災後、出産を扱えるのは市立病院だけになってしまった。産科の常勤医師はわずか2人。不足を補おうと、市立本吉病院の川島実医師(38)はあまり経験がなかった産科の応援ができるようにと、研修を受けている。」

「今後は、早産や帝王切開などハイリスクの妊婦の出産により注力できるように、さらに役割分担が進めば」と期待する。

「気仙沼市では震災後、出産を扱えるのは市立病院だけになってしまった。産科の常勤医師はわずか2人。不足を補おうと、市立本吉病院の川島実医師(38)はあまり経験がなかった産科の応援ができるようにと、研修を受けている。」